



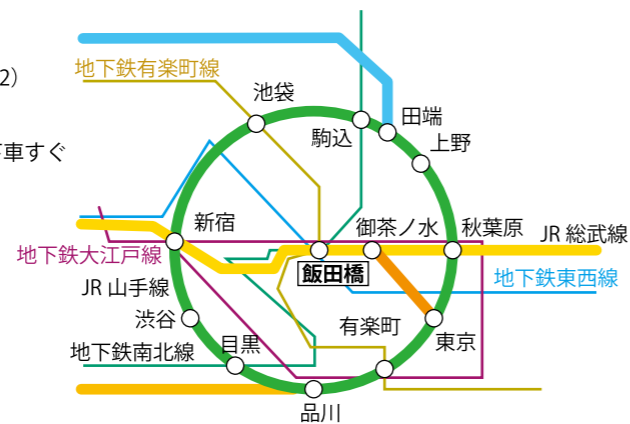
電車

JR 総武線（中央線各駅停車）／飯田橋駅東口 徒歩 5分
 東京メトロ 東西線・有楽町線・南北線／飯田橋駅（B1 出口） 徒歩 4分
 都営大江戸線／飯田橋駅（C1 出口） 徒歩 3分

*当校に一番近い地下鉄出口「C1」は、都営大江戸線利用の場合のみ便利です。
 地下鉄で車椅子等でお越しの方は、南北線後楽園駅寄りの改札前にある「地上
 行きエレベーター」をご利用ください。

バス

都営飯田橋駅前←→小滝橋車庫（飯 62）
 （昼間だけの運行です。）
 東京新宿メディカルセンター前 下車すぐ
 小滝橋車庫前←→九段下（飯 64）
 飯田橋 下車 徒歩 5分



独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO)
東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校
 東京都新宿区下宮比町2-12
tel.03-3260-6291 [本校ホームページ](#)



独立行政法人 地域医療機能推進機構



SCHOOL GUIDE



学び成長しつづける
東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校

ひとりひとりに寄り添い 確実に看護師として歩める 実力を身につけます



学校長 関根信夫

『学ぶ喜び』に支えられた教育環境の中で、
人の心に深く寄り添え、考えることのできる看護実践者を目指す

本校は、専門職業人として、人間に対する理解を深め、豊かな感性と調和のとれた人間性を養い、人の心に深く寄り添え、考えることのできる看護実践者の育成を図ることを第一の目的としています。

今後、少子高齢化が加速する我が国にあって、医療・看護におけるニーズは益々多様化・複雑化し、医療者はそれに応じて柔軟かつ的確な対応を求められます。本校の母体病院であるJCHO東京新宿メディカルセンターは、法人のミッションである地域医療機能の推進という役割を担い、超急性期・急性期から回復期、さらには緩和ケア、そして訪問看護ステーションと、病期全般に渡る診療機能を有しているのが特徴です。これからの看護を学ぶ場として、極めて恵まれた環境にあると言えるでしょう。

さて、1958年創立以来の長い歴史を持つ本校は、2022年夏、病院に隣接する、新装した校舎に移転いたしました。移転に際し、基本方針のさらなる充実を期して、1) 病院と学校のより密な関係の構築、2) '卒前卒後一貫'の方針を基にした教育体制の推進、3) 地域に開かれた学校としての役割、を新たな目標に掲げました。特に2020年来の新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、学校教育のあり方にも多大な影響を及ぼし、病院実習も十分に行えないといった問題も生じました。その点、本校では隣接した病院での実習を最大限に実施し、さらには卒業後も実践的なキャリアを積んでいくための看護研修プログラムを構築して、学校—病院一体となった指導を推進していきたいと考えています。また、病院の地域貢献の一環として、本校学生と病院職員のコラボレーションによる院内展示を企画し、患者さんや地域住民への啓発活動を行なっています。

是非、本校の方針をご理解いただき、「学ぶ喜び」を常に感じながら、求められ頼られる看護師を目指して学ばれることを期待しております。

本校は地域医療、地域包括ケアの担い手として、これからの医療・看護・福祉の向上と地域社会の多様なニーズにこたえ、人々の生活を支えることができる看護実践者を育成することを責務としている。人間に対する理解を深め、尊重する姿勢と誠実で豊かな人間性を養い、専門職業人として自律と成長を目指して学び続ける看護師を育成する。

教育理念

当校の5つの特徴

point 1 少人数制による教育



学生一人ひとりに目を向けた、きめ細かい教育で看護師への道をバックアップ。知識と技術の習得はもちろん、看護師としての資質をバランス良く育てていきます。

point 2 併設病院と共に学びをサポート



実習指導者と看護学校教員が連携し、指導の充実を図っています。実習中、指導者はいつでも相談のつてくれます。病院には卒業生が多く、学生の良き看護モデルとなっています。講義は、病院の医師や看護師が担当しており、最先端の医療や看護が学べます。

point 3 高い国家試験合格率



学年の習熟度に応じた国家試験対策や、学生1人1人の必要性に応じた個別的学习支援を行っています。そのため、国家試験は高い合格水準を維持しています。

point 4 立地は山手線の真ん中



本校は、山手線のほぼ中央に位置し、最寄駅は、飯田橋です。飯田橋駅には、JR線、有楽町線、大江戸線、東西線、南北線が乗り入れ、各方面からのアクセスに便利な立地です。近くには、江戸から受け継ぐ伝統の街「神楽坂」があります。

point 5 しっかりしたバックボーン



本校は、JCHO:ジェイコー(独立行政法人地域医療機能推進機構)の一員であり、北海道から九州まで、各地57の病院と附属看護専門学校、健康管理センター、介護老人保健施設、訪問看護ステーションを有する全国的な組織です。



概要

課程:看護専門課程
学科:看護学科
修業年限:3年(昼間)
定員:40名
卒業資格:専門士(医療専門課程)

沿革

1958年 4月 東京厚生年金看護学院として開校
1978年10月 専修学校に認可され東京厚生年金看護専門学校と改称
2014年 4月 設置主体変更により、学校名をJCHO東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校と改称
2022年 8月 校舎移転



カリキュラム

～人間の理解と生活の営みを支援する看護を学ぶ～

看護の基本である「人間の理解」と「生活の営み」を支える看護を学び、科学的根拠のもと看護を考え、実践する力を培います。演習、実習を通じて臨床判断について学び、看護専門職として対象に必要な看護を提供できる力を育みます。そして共に患者を支える多職種を理解し、連携・協働の基礎的な力を身に付けます。

「人間の理解と看護の基本」

1年次

一般教養のほか、病と共に生きる人の体と生活の営みを理解します。また看護の考え方や看護技術を学ぶことで、看護を行う基本的な力を身に付けます。

科目名	
基礎分野	科学的思考 ●文章表現法 ●情報 ●情報通信技術と医療 ●看護物理学
	人間と生活、社会の理解 ●心理学 ●生物学 ●運動と健康 ●音楽
	基礎看護学 ●看護学概論 ●看護共通基本技術 ●環境を整える看護技術 ●身体を清潔を保つ看護技術 ●栄養と排泄を整える看護技術 ●身体侵襲を伴う看護技術 ●生体機能管理技術 ●フィジカルアセスメント ●基礎看護技術演習 ●看護過程展開の技術
専門基礎分野	人体の構造と機能 ●解剖生理学Ⅰ/人体を構成する細胞と組織循環 ●解剖生理学Ⅱ/人体の形態・生命維持機能 ●解剖生理学Ⅲ/人体の調節機構と生殖 ●生化学 ●生活行動と形態機能学
	疾病の成り立ちと回復の促進 ●病理学 ●微生物学 ●治療論Ⅰ/呼吸器、循環器、血液・造血器 ●治療論Ⅱ/消化管、肝・胆・膵 ●治療論Ⅲ/脳神経、運動器 ●治療論Ⅳ/手術療法、化学療法、放射線療法、緩和医療 ●薬理学 ●栄養学
	健康支援と社会保障制度 ●医療システム
専門分野	基礎看護学 ●看護学概論 ●看護共通基本技術 ●環境を整える看護技術 ●身体を清潔を保つ看護技術 ●栄養と排泄を整える看護技術 ●身体侵襲を伴う看護技術 ●生体機能管理技術 ●フィジカルアセスメント ●基礎看護技術演習 ●看護過程展開の技術
	地域・在宅看護論 ●地域で生活する人々の暮らしと健康
	成人看護学 ●成人看護学概論 ●急性期における生命維持を支える看護
	老年看護学 ●老年看護学概論
	母性看護学 ●母性看護学概論
	精神看護学 ●精神看護学概論
	臨床実習 ●患者を支える病院・看護を知る実習 ●日常生活を整える看護実習

「ライフステージに応じた看護」

2年次

生命の誕生から人生の終末まで様々なライフステージにある人を理解し、病が及ぼす影響と看護を学び、臨床判断能力の基礎となる力を培います。

科目名	
基礎分野	人間と生活、社会の理解 ●人間関係論 ●教育学 ●基礎看護英語
	疾病の成り立ちと回復の促進 ●治療論Ⅳ/内分泌・代謝、女性生殖器、腎・泌尿器 ●治療論Ⅴ/アレルギー、膠原病、感覚器 ●治療論Ⅵ/リハビリテーション
	健康支援と社会保障制度 ●公衆衛生の基礎 ●社会福祉
専門基礎分野	基礎看護学 ●研究方法論
	地域・在宅看護論 ●地域・在宅看護概論 ●地域における健康支援 ●療養者の暮らしを支える看護 ●在宅看護技術
	成人看護学 ●セルフケアの再獲得を支える看護 ●健康課題と共に生活する人々を支える看護 ●終末期にある人々を支える看護 ●成人期にある人の看護過程
専門分野	老年看護学 ●高齢者の日常生活を支える看護 ●治療を受ける高齢者を支える看護 ●老年期にある人の看護過程
	母性看護学 ●小児看護学概論 ●治療を受ける小児の理解 ●健康課題のある小児の日常生活を支える看護 ●小児の看護過程 ●妊産婦を支える看護 ●褥婦、新生児、ハイリスクな産褥期を支える看護 ●産褥期にある人の看護過程
	精神看護学 ●精神に障がいを持つ人の理解 ●精神に障がいを持つ人の日常生活を支える看護 ●精神に障がいを持つ人の看護過程 ●臨床判断の基礎
	臨床実習 ●健康課題を持つ人々を支える看護実習

年間スケジュール



カリキュラムの構成

基礎分野

一般教養を通じて人間や人の暮らし、看護を考える基盤となる力を育みます。

専門基礎分野

人間の身体の仕組み、疾患・治療など、科学的根拠をもって対象の状態を理解するための科目があります。また、医療システムや公衆衛生など患者を取り巻く社会を広い視点で捉え、専門職として多角的な視点で考える基礎的な力を養います。

専門分野

看護の考え方、基本となる看護技術を演習を交えて学びます。また基礎分野、専門基礎分野の学習内容を活用し、発達段階の違いやライフステージの特徴をふまえた看護を学びます。

「知識・技術の統合と看護を探究する力」

3年次

実習や看護研究を通じて看護とは何かを考え、多職種と連携しながら必要な看護を創り出していく力を育みます。

科目名	
基礎分野	科学的思考 ●哲学
	人間と生活、社会の理解 ●社会学 ●応用看護英語
	健康支援と社会保障制度 ●医療倫理 ●公衆衛生と健康支援 ●看護関係法規
専門基礎分野	地域・在宅看護論 ●在宅療養をする人の看護過程
	看護の統合と実践 ●看護管理 ●医療安全 ●災害看護・国際看護 ●看護研究 ●看護統合演習
	臨床実習 ●様々な暮らしの中で生活する人々を支える看護実習 ●地域で暮らす療養者を支える看護実習 ●周術期にある人々を支える看護実習 ●慢性期にある人々を支える看護実習 ●慢性期・終末期にある人々を支える看護実習 ●小児の成長・発達を支える看護実習 ●生命の育みを支える看護実習 ●その人らしさを支える精神看護実習 ●統合看護実習
専門分野	

授業ピックアップ

生活行動と形態機能学

複数の機能が織りなす生活行動を学ぶ

解剖生理学で学んだ人の体の構造と機能の知識を応用し、食べる・排泄する・眠る・入浴するなど、生活の営みがどのような機能から成り立っているのか、関連し合う複数の機能を統合しながら考えていきます。人体の構造と機能を生活行動の視点から改めて捉えることを通じ、疾患が生活に及ぼす影響について科学的根拠を基に考える力を身に付けます。



フィジカルアセスメント

身体の状態を推察する基本技術を学ぶ

問診・視診・触診・打診・聴診により身体状態を推察する技術と考え方を学ぶ科目です。学生同士で実践しあい、サインの正常・異常の違いを学びます。また映像や音声、モデル人形を活用し、様々な身体の状態を根拠をもって推察することを学びます。

小児看護学

成長・発達を支える看護を学ぶ

小児看護では成長と発達の過程を学び、子どもの世界観や病気になる時に経験する戸惑いについて考えます。さらに子ども、家族が治療に取り組むための看護をグループワークやロールプレイを行い、体験しながら学習します。



母性看護学

生命の育みを支える看護を学ぶ

母性看護学では妊娠、出産に伴う身体と心の変化を理解し、生命のはぐくみと家族を支える看護を学びます。また、生後間もないベビーの計測や沐浴の演習、産後の家族を支える看護をクラスメイトと考える経験を通じ、一人ひとりが自分の母性観・父性観についても考える機会となります。

看護研究

看護の意味を探究する姿勢を身に付ける

実施した看護を振り返り、行った看護の何が患者のどのような変化をもたらしたのか、看護の意味を現象学的に考え論文としてまとめます。この経験を通じ、看護を探究し続ける姿勢、そして看護研究の基礎力を身に付けます。



看護統合演習

知識・技術を統合し、複数患者へ看護を行う基礎力を身に付ける

3年間学んできた人体の構造と機能および治療、看護の知識を活用し、統合的に看護の必要性を考えて看護を実践する科目です。クラスメイトでチームを作り、6人の模擬患者を複数の学生で協力して看護し、メンバー、リーダーの役割やチームでの連携・協力を経験から学びます。



学校生活

3年間の学校生活を紹介します

1年次

身体の構造や機能に関する知識や理論を学び、社会で生活する「人間」について理解します。また、体験や講義を通して「看護」について考え、専門職業人としての自覚を培います。初めて聞く言葉に戸惑いながらも学習の基盤を作っています。



Voice

解剖生理学・形態機能学では、臓器の構造や機能や人体の仕組みについて学んでいます。また、実技では、生活するのに助けが必要な方を想定した生活援助について学び、看護技術を習得しています。看護技術の習得は難しいですが、先生方やクラスメイトから助けられながら学ぶことができます。学習内容には難しいことも多くありますが、学ぶ楽しさを感じています。

1年生



2年次

1年次より専門的な学習がはじまり、疾患や治療・看護に関する知識を深めます。入院する患者さんに対して実際に看護する機会もあり、高い知識や技術が求められます。クラスメイトと協力してグループ課題にも取り組み、切磋琢磨しながら学習しています。



Voice

さまざまな疾患や治療に応じた看護について学んでいます。身につけた知識や技術を用いて、個々の患者さんに合わせた看護をすることはとても難しいです。しかし習得した看護技術に加えて、患者さんそれぞれにあった創意工夫をすることで、回復していく過程を目の当たりにすると、とても大きなやりがいを感じます。先生方はいつも親身になってくれるので、安心して学ぶことができます。

2年生



3年次

社会の仕組みを理解し、あらゆるライフステージにある患者さんが属するコミュニティを理解した上で、患者さん一人一人にあった看護を模索します。自分自身とも向き合いながら看護観を深め、なりたい看護師像を明確にして学習に取り組んでいます。



Voice

患者さんへの看護の実践だけでなく、看護管理についても学習しています。実習で学んだ看護実践を看護研究としてまとめたり、看護師国家試験に向けた学習も行っています。大変な実習や学習は友人と支えあいながら取り組んでいます。知識を習得し、実習での貴重な経験を積み重ねることで、少しずつ自身の成長を実感することができ、自分の看護観が形作られつつあります。

3年生



多学年交流

チューター会・交流会

本校は全学生が120名の少人数制であり、1グループが15人程度の、チューター制を導入しています。そのため、学年の垣根を越えた交流がしやすくなっています。チューター会は年に数回開催しています。まだ右も左も分からない1年生や、実習や国家試験に向けて不安の強い2年生にとって3年生のチューターは良き指導者であり相談相手でもあるようです。チューターとなる上級生は下級生に対し、モデルを示しながら実習の体験や自身の学習方法を交えて様々なアドバイスをしてくれるので、とても頼りがいのある存在です。新入生が早く学校へ馴染むことができるように交流会も行っています。また、下級生にとって上級生は単に憧れだけでなく学習のモチベーションを上げてくれる存在でもあり、在学中だけでなく卒業後も頼れる存在となっています。



看護技術指導

上級生から下級生へ看護技術の伝達・指導をする機会を設けています。上級生は下級生よりも知識や経験が豊富ですが同じ学生であるという立場から、下級生の困りごとに気が付きやすく、下級生にとっても気持ちが伝わりやすいというメリットがあります。また、上級生にとっても看護技術の伝達・指導は、自身の再学習の機会となるだけでなく、自身の成長に目を向ける大切な機会でもあります。上級生と下級生の双方にメリットがあり、きめ細かな指導の場となっています。



学びをサポート

本校は1学年に40名在籍しており、全学生で120名です。そのため、学生1人1人の個性に目が行き届き、個人の強みを生かしながら課題の克服に向けた支援をしています。看護学校では新しい知識の獲得だけでなく、実技や論理的思考力の習得、専門職業人としての倫理観など学問として幅広い学習が要求されるため、学生はさまざまな壁にぶつかることがあります。学生が壁を自分の力で乗り越えることができるように、学生1人1人と同じ目線に立ちながら学習面だけでなく精神面においても支援しています。



担任制・チューター制

担任制・チューター制を導入しており、学生が教員や先輩に相談しやすい窓口を設置しています。教員が学生にとって身近な存在となるようにクラスを運営する担任の教員だけでなく、クラスを小グループに分けたチューターに教員も配置し学習活動を支援しています。

学生相談室

月に3回学生相談室を開室しています。学習活動を行うためには、安心した生活環境が必要です。実習や学校生活だけでなく、私生活についても悩んだときにはカウンセラーの先生に相談することができ、一緒に解決策を考えてくれます。

国家試験合格に向けたサポート



1年生

国家試験に意識を向け、学習習慣を確立する

看護師資格を得るための国家試験についてオリエンテーションを行い、国家試験合格に向けた動機づけを行っています。対策としては、健康な身体の恒常性を維持するための臓器の構造や機能について学習を深めるために下級生向けの模擬試験を実施しています。また、日々学習したことを知識として定着できるように自宅での学習習慣を確立できるように支援をしています。

2年生

系統的な知識の獲得に向けた学習方法を習得する

1問1答ではなく、問題を解くためのキーワードとその周辺知識についてより理解を深め、系統的な知識の獲得ができるように支援しています。系統的な知識を獲得するプロセスについてクラス全体で学習会を開催し、学習の仕方を共有できるようにしています。クラスで一体感を持って国家試験対策に向けた学習ができることを目指しています。

3年生

あらゆる問題に対応する力を身に付け、自信をもって国家試験を受験する

模擬試験を実施し、結果をもとに個人に合った支援を行っています。他にも夏季・冬季と国家試験対策の特別講義を実施し、学習内容を復習できるように支援したり、国家試験対策に役立つあらゆる情報を提供し、自己学習に役立てられるように支援しています。2月に実施される国家試験に向けて、学生が心身ともに整え、自信をもって臨むことができるように支援します。



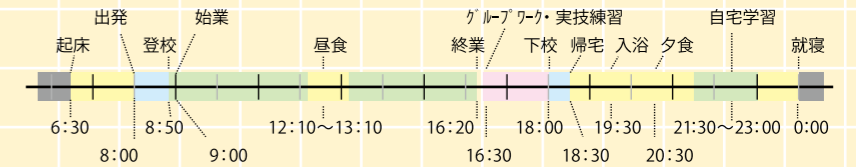
学生の1日をご紹介します



2年生 Aさん

「学習の仕方が少しずつ分かってきました。」

2年生になって学習が難しくなり大変なこともあります。クラスメイトと協力したり先輩から助言をもらうことで、1人で悩みすぎることなく充実した学校生活を送っています。また少しずつ学習の仕方が確立しつつあることで、1年生の時よりも自分に余裕ができたと思います。



8:50 登校



講義の準備やクラス内の連絡があるので、10分前には登校しています。

10:00 講義を聴講



母体病院の看護師や医師など様々な専門職の先生方が講義をしてくださり、実体験を交えた講義をしてくださるため、興味深く受講することができています。

14:00 グループワーク



講義の事例を通して、患者さんに最適な看護とはなにかをクラスメイトと討議していると、私たちが今学習すべき内容が見えてきます。

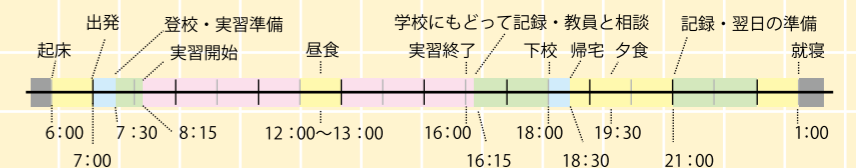
17:00 実技練習



演習や実習に向けて放課後にクラスメイトと一緒に練習をしています。はじめは大変さを感じましたが、クラスメイトと一緒に練習することができます。

「自分に合った時間の使い方を習得することも大切です。」

実習中は勉強や記録以外にも、患者さんに必要な看護技術についても事前準備が必要なため、学習の方法だけでなく時間の作り方についても悩むことが多くありました。しかし、先輩や先生方からアドバイスを頂きながら、自分にあった勉強方法や時間の使い方を習得していきました。



3年生 Bさん

8:00 実習病院へ向かう



実習病院は学校のすぐ隣です。実習病院が学校から近いことで勉強にあてられる時間を確保しやすいです。

11:00 患者さんへの援助



療養生活のお手伝いや医療的な処置だけでなく、コミュニケーションも患者さんへの大切な看護の一つです。

15:30 指導者へ報告



患者さんの苦痛を和らげたり、身体が回復していくのを助けるためにはどのような看護を行えばよいか話し合っています。

17:00 学内学習



教科書や参考書を用いて実習中にわからなかったことや、新たな疑問について調べて勉強をしています。



学校・施設紹介



情報処理室



教室



講堂



図書室



演習室

- ・個室の演習室もあり、学習に集中して取り組むことができます。
- ・講堂では講演や発表会、式典などを行っています。



学習スペース

図書室の蔵書数は9,000冊以上あり、最新の図書を購入しています。課題や講義・実習の自己学習などに活用できます。また、隣接する母体病院の図書館も利用することができ、専門書などにも触れやすい環境が整っています。



看護実習室



シミュレーションモデル人形

パソコン操作で様々なシナリオに合わせて反応するシミュレータモデル人形を使って、実際の場面を想定して対応する実践力を養うトレーニングができます。



在宅実習室



実習スペース

1クラス40名で、演習時は学生3～4人で1台のベッドを使用することができます。また、在宅実習室など実際の環境を想定した設備もあり、いつでも練習できる環境が整っています。



多目的室



憩いのスペース

多目的室は開放的な環境で、学生たちで集まっておしゃべりや食事をしたりできる憩いの場です。グループでの学習や、教員から指導を受ける際などにも利用されています。

先輩からのメッセージ



就職後も同級生と共にキャリアアップ！

看護学校卒業後、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科の混合病棟に配属されました。配属当初はできることも少なかったですが、先輩と一緒に受け持ち患者に対するケアの振り返りを行ったり、自信のない処置を繰り返し実践していく事で、少しずつですが出来る事が増えてきました。実習では母体病院と連携しているため、就職後を見据えた看護を学ぶことができました。また、卒業後もほとんどのクラスメイトが母体病院に就職したため、学生時代の仲間たちと共にキャリアアップをすることができています。

—ノ澤 美海さん 令和3年度卒業



皆さんと一緒に学べることを楽しみにしています。

学生時代や入職後は、初めは慣れない環境で覚えることもたくさんあり、苦勞することもありましたが、同期の仲間たちと支え合い、お互いを高め合いながら乗り越えてきました。今でも同期との交流はよくあり、大切さを実感しています。実習では学生さんたちが楽しく多くのことを経験し、学べるようにスタッフ一同取り組んでいます。皆さんと一緒に学べることを楽しみに、病棟でお待ちしております。

澤田 雄輝さん 平成28年度卒業



恵まれた環境で専門性が磨けます。

卒業生の先輩が多く、良い環境で沢山のことを学び、その中でストーマケア・褥瘡ケアに興味を持ちました。現在は皮膚・排泄ケア認定看護師として院内の褥瘡ケアに関わり、後輩指導や看護学生の指導も行っています。当院は院内の教育制度が充実しており、先輩後輩と共にスキルアップを目指す環境が整っています。今後は育休中にもサポートを受けながら創傷管理関連特定看護師の資格を取得する予定です。

齋藤 知恵実さん 平成15年度卒業

実習病院について



- 診療科36科、病床数520床。職員数は800人以上で、看護師は400人以上。
 - 病院機能評価で3rdG:Ver2.0と認定されました。
 - 看護師の6割が卒業生になります。
 - 訪問看護ステーションを併設しています。
 - 認定看護師が10名以上在籍し、それぞれの分野で活躍しています。
- ※認定看護師とは、日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、特定分野において熟練した看護技術と知識を有すると認められた看護師のこと。

連携病院との活動 (地域貢献)

母体病院と協働し、展示物の作成など地域の住民の方々に向けた活動を行っています。



オレンジチーム
(3つのオレンジを活用した認知症対応)



ナイチンゲール生誕200年

卒業後のサポート



当院では、安全で安楽なケアの技を実習指導の中で伝えるとともに、実習指導者の見守りの中で学生自身が安心して看護実践を行える環境づくりを第一に考えています。実習指導者は、幅広い領域で質の高い看護が提供できるジェネラリストと、専門看護師や認定看護師、特定行為研修修了者などのスペシャリストがおり、学校と話しあいながら指導の充実を図っています。卒業生も多く、学生時代の縦の繋がりがサポートとなり、働きやすい環境が整っているのも附属の看護学校ならではの強みです。

入職後はプリセプターとして先輩看護師が指導担当としてつき、相談しやすい環境のもと確かな看護実践能力が身につくように、当院独自の卒後2年間プログラムで初期研修を行います。また、個々の将来像に合わせたキャリアアップが実現できるようなサポートも行っています。

